猫が婆さんに恩をかえす

ある一人の婆さんが山の中で猫とくらしていたんだどぉ。ところが婆さんも年をとって、もう働らけなくなって、どっと床につくようになったんだどぉ。そうすると猫は婆さんの枕もとにきて悲しそうにないては、はなれなかったんだどぉ。婆さんはその様子をみて「これ猫や、わしもお前をここまで育ててきたが、もう床につくようになってお前を飼うことができなくなったぞ。」といいきかせたんだどぉ。猫はその言葉をきくと、こっそり見えなくなってしまったどぉ。それから間もなく一人の十七、八のきれいな娘が、毎晩たもとの着物を着、からころとげたの音をさせながら、三味線をひき、かどつけの踊りを踊って歩くようになったんだどぉ。それが評判になり、猫踊りがついにみやこにまで聞えていって、舞台にでて猫踊りをしたり、一本の綱の上を傘さして高げたをはいて踊ってゆくまでになったんだどぉ。その演技のうまさに毎日大入満員、お金がうんと娘(猫)のもとに届けられ、お陰で山の中のお婆さんはそのあと何不自由なく、猫とくらしたんだどぉ。